

統計グラフコンクールを省りみて

県統計グラフコンクール審査員 宮 本 寿 雄
教育庁指導課指導主事

統計グラフコンクールの応募点数は年ごとに増加し、本年は総数で1,617点、参加校は268校となった。とくに、中学校は321点で昨年の2.8倍にあたり、統計についての関心が高まったことを示している。この応募数の増加は、統計グラフ巡回展示会の実施が大きな力となっていることが考えられ、本県の統計教育の推進に期待がもたれるものである。

応募作品は、各部ともレベルの向上がみられ、初参加校の作品の中にもすぐれたものが多くあって、学校差がすくなくなってきた。

審査にあたっては、次のような観点によって慎重に行なった。

1 主題の設定

何を表現しようとしているか、グラフを読むものにより理解される表現であるか、訴える力があるか。

2 資料の収集

信頼性はあるか、主題に合ったものか、出所は明確か。

3 図形の選定

グラフの種類は適切か、作図の技法は正しいか、グラフや文字の量は適切か。

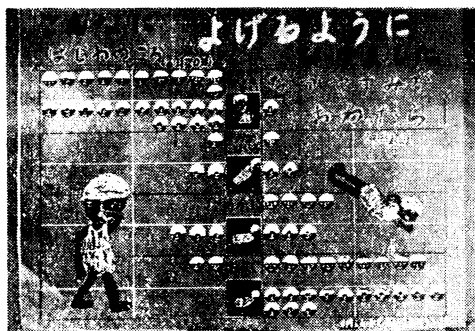
4 色彩

コントラスト、明るさなどは適切か。

5 発達段階

学習した知識、技能が生かされているか。

入選作品のうち、第2部の「茨城にも光化学スモッグ」は、本県にも、注意報の出されるようになった大気汚染による公害を表現したもので、関心をあつめる作品である。第3部の「ふたつの顔沖縄」は、本年5月に本土復帰した沖縄への関心を父兄と生徒のアンケートの結



【第1部小学校1～3年第1席 鈴木紀子・国府田八千代】

果をまとめたもので、中学生らしい技法と色彩がよい。また、第1部の「こんなにおよげるようになりました」は、水泳練習の成果を表現したもので、1年生らしい資料のあつめ方、まとめ方によって発達段階に即した表現をしている。このほか、学校生活の中から主題を選んだもの、公害や交通事故に焦点をあてたもの、親子、友人など対人関係を取りあげたものなど、すぐれた作品があった。

第1部、第2部は、自分で資料をあつめグラフ化するというねらいがあるが、資料のあつめ方が適切でないために訴えるものがない作品となったものがあつた、指導にあたられる先生方に、適切な助言をお願いしたい。

審査の結果から今後の統計グラフ作成上の留意点をあげると次のようになる。

- 1 主題に合ったグラフを選ぶ。
- 2 何を訴えているかがはっきりわかる表現をする。
- 3 観察記録は、単なる日変化でなく因果関係がわかるような記録をとってグラフ化する。比較の条件を示すこともたいせつである。
- 4 色彩を重視する。

これらの点に留意し、今後、すぐれた作品が多数応募されることを期待したい。

私の健康法

人はだれでも健康でありたいと願い、健康でありたいため多かれ少なかれ人それぞれに健康法を考え実行していることと思う。私も冷水摩擦、ラジオ体操、マラソン、なわとびなどいろいろな健康法を朝晩実行してみたがいずれも3日坊主で長続きしない。今更ながら自分のふがいなさにただただあきれるばかりである。

ただその中で一つだけ今でも実行しているのは、朝晩の通勤に少々歩くことである。今から7年前衛生部に勤務して間もなく、水戸保健所の所長さんが健康のため毎日1万歩以上歩いている話をきき、1万歩の根拠はわからないが、とにかく医師である所長さんがいわれるのだから間違いはなからうと、それ以来多かれ少なかれ毎日歩くことにつとめたのである。はじめ5日程自宅から県庁まで約4キロを歩いてみたが、到着してからどうも少し疲れるような気がして、それからは歩いて疲れたら途中でバスの乗ることにした。3カ月程歩いているうち子供達から誕生日にと「万歩メーター」が贈られた。これはおもしろいと毎日これを腰にさげて1週間通勤してみた。その結果は、

起床時から通勤時まで 400 - 500歩

自宅出発からバス停まで 400～450歩
 バス下車から県庁まで 400～450歩
 出勤時から退庁まで 2,000～3,000歩
 帰宅時から就寝まで 400～500歩

となりバスで通勤すれば自宅で歩くのも合わせて4,400～5,800歩となり1万歩にはほど遠いことがわかった。そこで次の週は、自宅から大工町まで約2キロを歩いたら、これは約25分（途中で信号がある）で2,900～3,100歩でそれでも1万歩に足りない。さらに帰途県庁から大工町まで約2キロを歩いたところ、これも約25分で2,800～3,000歩であった。

つまり私の場合毎日5,000歩内外、時間にして40分～50分、キロにして4キロ内外を意識的に歩かないと1万歩にたらないし、健康法にもならないわけで、それ以来7年余、朝は自宅から大工町まで、帰りは反対に県庁から大工町まで、それぞれ2キロを25分内外で歩き続けているわけである。その効用はと聞かれるといまだにうやむやであるが、とにかく今はよかれあしかれ歩くことが習慣であり、また楽しみでもある。

（県統計課長 青木正寿）

統計ニュース

◇ 11月の主な行事 ◇

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ○1～2日 消費者動向予測費査関東甲信静ブロック会議 | ○15～16日 毎月勤労統計調査抽出替東日本ブロック会議 |
| ○ 2日 労働力調査標本管理調査 | ○16～17日 労働力調査特別研修会 |
| ○8～9日 法人企業投資予測調査関東甲信静ブロック会議 | ○ 16日 第14回茨城県統計大会 |
| ○13～15日 市町村民所得推計事務研修会 | ○21～22日 第2回統計調査員研修会 |
| ○14～15日 小売物価統計調査関東甲信静ブロック会議 | ○ 24日 人口統計解析研究会 |
| | ○28～30日 統計主事資格認定講習会 |
| | ○30日 住宅統計調査試験調査日 |

■ 第14回茨城県統計大会のお知らせ ■

統計の祭典第14回茨城県統計大会は、茨城県と茨城県統計協会の主催により、昭和47年11月16日（木）午前10時から、水戸市千波町の県立県民文化センター大ホールで開かれます。参加者は約1千名が予定され、大会の行

事としては、統計功労者および県統計グラフコンクール入賞者の表彰、県統計グラフコンクール入賞者の研究発表、大会宣言、アトラクション等が行なわれます。